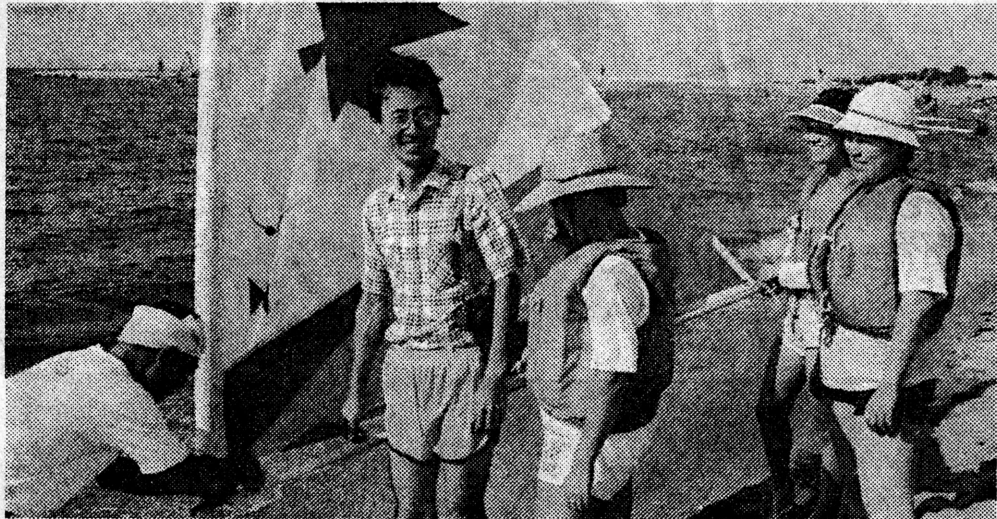


(第三種郵便物認可)

昭和60年(1985年)9月1日(日曜日)

初挑戦の女性たちにカナディアンカヌーを教える青木さん(中央)



おかわりか カナディアンカヌー



操りやすく 女性に人気

世界一周の青木さん指導

風をほらんでふくらむ帆、多い。海と川の両方で楽しむ。水面をすべるパドルの水しぶき。カヌーとヨットをひとりの楽なことが女性にも受けてつにいたカナディアンカヌー。いるようで、「むずかしそうは、日本ではまだ珍しく、未だと思っていたけど、海に出知の魅力があるが、この楽しさはなんともいさをもっと知ってもらおう。これからの季節は日と、単独で世界一周をはたしに焼ける心配なしにできるかたヨットマンの青木洋さん(三三三)「わー」と、ファンは増え

さらが開いているカヌー教室。中には、女性も含めて参加者が

そつだ。

カナディアンカヌーは、もともとカナダの原住民たちが移動のために川下りに使ったものだ。これにマストをとりつけ、海にも出られるようにしたものが現在の形のもんだが、これを教えるところほほとんどない。このため、「扱

いやすくて海の楽しさを満喫

できるこのカヌーをもっと一般に普及させよう」と、四十六年から三年半かかって世界最小のヨット「信天翁(あほうどり)二世」号で世界一周をはたした青木さんが中心にこの春から教室を開講した。真冬以外はいつでも楽しめるカヌーへの参加者は男女ほぼ半々。このほぐ、大阪府の二色ノ浜海岸で開かれた教室へ参加した、奈良県生駒市の商社OL、嶋岡房子さん(三三三)は「女性の多いのにびっくり。初めてだったんですが、思ったより操りやすくてとりこになりそう」と早くも夢中。講師となっている青木さんは「ヨットとは違って、こゝろ受けるんでしょ。初めでもかなり沖まで出て行けますから、いろんな人たちに楽しんでもらいたいものです」と話している。

カヌー教室へ参加希望者は、千原大阪府泉北郡忠岡町忠岡南二の一六の一七、ウエダマリンスクール(電〇七二五—三三四—三五八)まで。